



## 誰もが、気軽に、楽しく！

「81」と「32」。いったい何の数字でしょう？

実は、これ10月12日（日）に行われた『第33回安芸ピットリタイムレース』に参加された方々の最高齢者と最年少者の年齢です。今年も安芸郡市体育会主催の『第33回安芸ピットリタイムレース』が老若男女幅広い参加を得て盛大に行われました。

そもそもこの大会は、「県民皆スポーツ」の推進を図るため、誰もが気軽に参加でき共に汗を流しながら、スポーツの楽しさを味わってもらおうと安芸郡市体育会と地元の「走ろう会」とが協力し開催したのが始まりのようです。今でこそ「ピットリ」と銘打ったレースがあちこちで行われ定着していますが、その元祖ともいえるのがこの大会のとのこと。今年で33回目を迎えることになりました。33回ということは、なんと今回出場した最年少者がまだ生まれてない時代から行われている大会ということになります。



レースは、3km、5km、8kmの3部に分かれ、参加者それぞれが目標タイムを設定し、文字どおり「ピットリタイム」を目指して健脚を競うものです。参加者はさすがに日々走り込んだ健脚揃い。ただ健脚ばかりでなく、正確な「体内時計」をも併せ持つのがこの大会の参加者のすごいところ。腕時計など一切の時間がわかるものを外し、午前10時頃（「頃」とするのもこの大会のルール！）、8kmの部を皮切りに各部門スタートしました。

参加者は、スタートと同時に各自「体内時計」をセット。自分のリズムでペースを刻んでいきます。仲間とペースを整える人、夫婦で呼吸を合わせる人…みんな「ピットリ」を目指してゴールに向かいます。ところが、コースには、参加者の精密な「体内時計」を狂わす大きなハードルが現れます。それは、コースにある信号。できるだけ信号のないコースを選んでいるのですが、今の世の中信号のないコース設定というのは困難なのが現状です。愛好者の中には、信号があるから、出場を見合わせる方もいらっしゃるとか…。不運にも信号にかかってしまった場合は、大きなロスタイムが生まれることとなります。（逆に 信号にかかることで「ピットリ」に近づくことも！？ごく稀だと思いますが…）実際、ゴール後「信号に2回もかかった」という人や「あの信号がなかったら…」と悔やむ人がいる一方、幸運にも全くかからない人もいます。これも明暗を分ける大きな要因になってしまいます。



いろいろな困難を乗り越え、81歳の最高齢者も32歳の最年少者も参加者全員が次々とゴールしました。どの参加者の顔もこの日の秋晴れのようにさわやかな表情でした。今年は5kmの部で2人のピットリ賞が生まれました。また、ピットリ賞だけでな

く、好記録もたくさん生まれました。参加者のみなさんお疲れ様でした。

最後にもう一つだけ数字を挙げてみます。

「64」ーこれは今大会への参加者の数です。ピーク時には114人を数えた参加者数も、半数近くに減っているのが現状です。意義もあり、歴史もあり、そして誰もが気軽に参加できるこの大会を次の世代につなげていくためにも第34回大会が多くの参加者であられることを期待します。